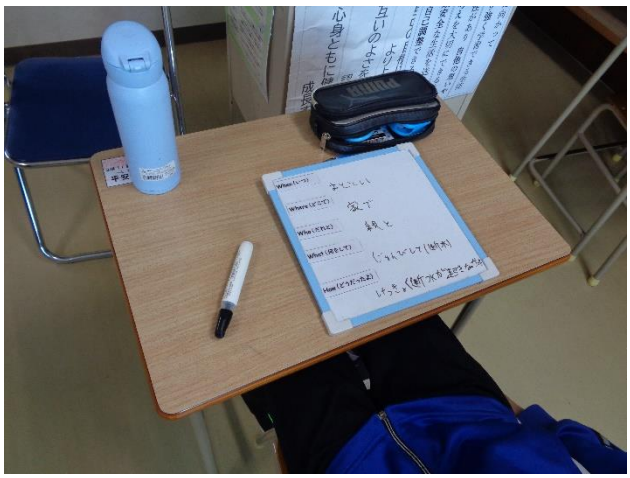
宝物はすぐそばに

校内研通信
第26号　　R7.11.26
発行者:校内研担当　仲村智

やる気スイッチをONにする魔法のことば“Good job”

１１月２６日（水）１校時、３年１１組にて新垣萌華先生が自立活動の授業を公開しました。本時のねらいは、話すとき聞くときのポイントを意識して活動に取り組むことです。導入で本時の流れを確認しながら、今日の日付や天気を英語で答えていました。掲示物や萌華先生のふとした会話を聞いていると、「ここは英会話教室か」と思うくらい英語にあふれ楽しい学習雰囲気をつくっていました。授業の中では、何種類かのトレーニングをプリントを中心に行っていましたが、萌華先生のいいなと思ったところは、それぞれの活動のまえにその目的などをきちんと説明してから活動にうつっているところです。最後まで集中を切らすことなく、時には生徒の状況に応じながら課題を変えたり選ばせたりすることで主体的に学習に向かわせる工夫も good job 👍　教材準備など大変だったと思いますが、素敵な授業をありがとうございました😄



RSを自立活動から学ぶ

本日のキーワード

RS教育の本質は「認知負荷の軽減」という科学的根拠に基づいている。音読や視写、共書きといったRSトレーニングは、まさにこの認知負荷を軽減するためのものである。これまで特別な支援を要する生徒にのみ適用されがちだった「自立活動」を全ての生徒へと拡張する視点、すなわち「普通学級にいる生徒の自立活動」という側面で考えた時、RSのヒントは「自立活動」にあるといえる。全生徒の学習の土台作りに応用することこそがRSの目的なのです！

「課題外在性認知負荷」

学習課題とは直接関係のない認知負荷のこと。例えば複雑な指示や見にくいワークシート、刺激の多い学習環境、「失敗したらどうしよう」といった学習とは関係ない学習者自身の余計な考えなど、こうした負荷はできる限り減らしていくべきである。